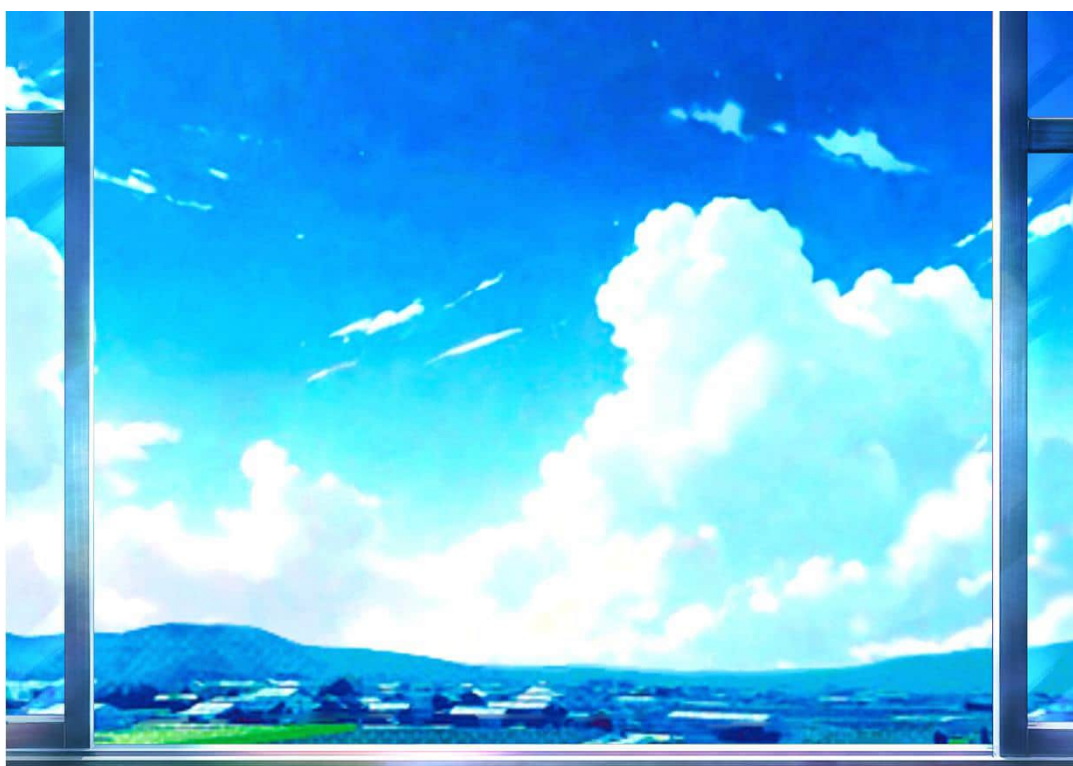


令和 6 年度指定（学際領域学科）「文理探究科」（令和 7 年度設置予定）

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

令和 6 年度研究開発実施報告書 第 1 年次



～叡智かがよう三原野に～



兵庫県立淡路三原高等学校

巻頭言

兵庫県立淡路三原高等学校長 大塚 剛啓

令和4年度より、高校の学習指導要領が改正され、それまでの「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」に代わりました。総合的な学習の時は、各学年で内容を考えて生徒の進路につながるような取り組みを主に行っていましたが、総合的な探究になってからは、学年ばらばらではなく、全校的な取組として実施されるようになってきました。内容的にも、「実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現すること」（学習指導要領）を目標とした活動を行うことになっています。

本校では令和3年度から試行錯誤を繰り返しながら、探究活動の取組を進めてきましたが、昨年度からは総合的な探究を「Sagas」と名付け、取組を強化してきました。また、来年度からサイエンスコースが文理探究科へ改編されることに向け、文部科学省の「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」を受託し、大学や様々な機関と連携しながら取組を深化させています。

新たに設置される文理探究科では、新しい探究の科目として、統計データの分析手法を学ぶ「データサイエンス基礎」、英文を含む文献読解やディスカッションを行う「読解 Integral」等を開設する予定で、文理融合の学びを通じて、主体性、創造性、協調性、社会参画意識を醸成し、柔軟な発想で未来の新たな価値やシステムを創造する人材の育成を目指すこととしています。

生徒たちは、探究活動を通して、社会に関心をもち、地域や関係機関の人たちとつながり、主体的に考え、学びを深めながら、積極的に行動する力を伸ばしてくれていると思います。そして、この探究の取組が淡路三原高校の教育活動の大きな特徴になることを期待しています。

この報告書では今年度行った本校の探究活動の成果が記載されています。一年一年、取組を積み重ね、さらに内容を深めていくための資料として活用されることを期待しています。

最後になりますが、平素から、本校の探究活動の推進に対し、多大なるご協力をいただいている南あわじ市役所、教育機関、企業・団体、地域の皆様に改めて感謝を申し上げ、巻頭言といたします。

【兵庫県立淡路三原高等学校】学際領域学科「文理探究科」（令和7年度設置予定）

文理探究科設置の目的

- ・ 学際的思考力育成 → 各学問分野への興味関心の深化
→ 社会の変動に対応できる探究心のある人材育成
- ・ 地域、企業、研究機関の人材と交流 →
①主体性 ②創造性 ③協調性 ④社会参画意識を有した人材育成

特色・魅力ある教育の概要

- ・ 探究活動＋教科横断プログラム
- ・ 校外研修ツアーの充実
- ・ 実践的英語運用能力の育成
- ・ ICT環境の整備とデータ活用技術の習得
- ・ 外部人材と学校をつなぐコーディネーター業務



関係機関との連携・協働体制の構築方法

南あわじ市連携協定
(地域人材)うずしおコンソーシアム
(地域＋国際人材)

地域の課題を知る
地域の良さを知る
地域で働く人を知る

国内外の課題を知る
未知の世界を覗く
専門的知識、経験から学ぶ

運営指導委員会
(専門家からの助言)コーディネーター
(教育と社会の懸け橋)

令和6年度の目標

取組状況

a) 総合的な探究の時間と学校設定科目
年間指導計画作成b) 総合的な探究の時間「Sagas ラボ」
「Sagasゼミ」の先行実施

c) 生徒向け経年アンケートの立案作成

d) 企業、研究機関との連携新規開拓

e) ICT環境の整備

f) 探究に係る教員研修の充実

g) 生徒の探究に向かう力育成

a) b)

探究活動

学際科目

教科指導

教科指導が生きるカリキュラム先行実施中

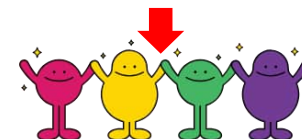
c) 観点別評価に使用できる
5件法22項目のアンケートd)  大学、研究機関－14
自治体、企業－8e) 新設教室「探究ラボ」
～MeetingからPresentationまでf) 分野別校内研修－1回
校外発表会、研修会への参加
－のべ13名g) c) 「主体性」の7項目で
4以上を選んだ2年生の割合
－平均69.5%

成果

課題

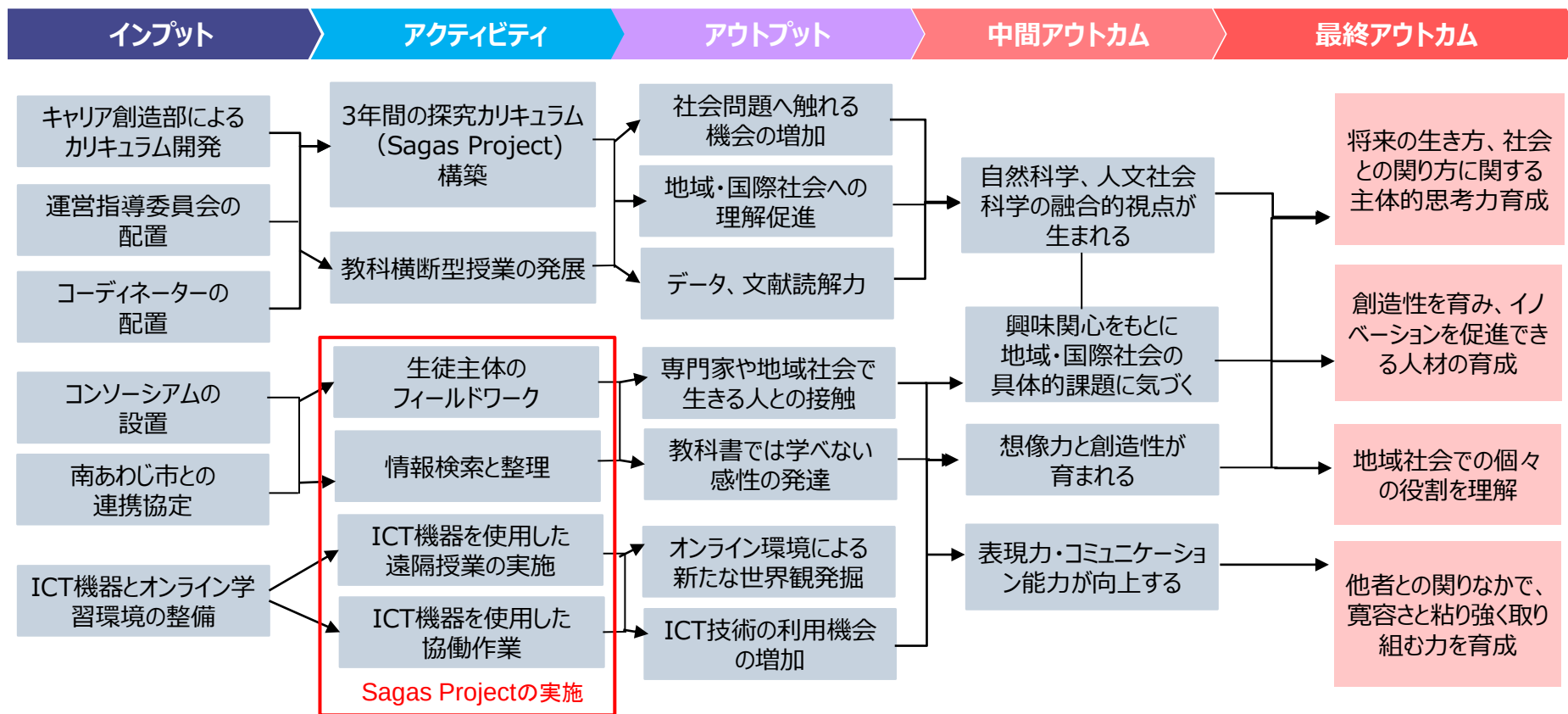
1. 教員の探究活動への意識変化
3年間連動カリキュラム
↓
探究に係る教員の増加（のべ42名）
2. 南あわじ市との連携内容の充実
↓
校外活動、地域人材との交流増加
3. 校外発表会に参加する生徒数増加
（2年生：30名）
4. 体験型オープンハイスクール
（Sagas Day）の実施
5. 研修旅行（Sagasツアー）実施
8月：東京/筑波、大阪/京都、広島
6. 生徒の意識向上
「自分の探究活動が何かとつながる」
実感 60.2%（経年アンケートから）

1. 運営委員会、コンソーシアム委
員会などの会議調整
↓
会議目的の具体化と手段の改善
2. コーディネーター業務の効率化
↓
持続可能な運営：校内組織調整
3. 「学際領域」のわかりにくさ
↓
校内外での広報活動の重要性
教職員の理解→地域の理解へ
4. 文理探究科から普通科へ
探究カリキュラム還元



探究活動をすべての生徒に！

普通科改革支援事業 ロジックモデル【兵庫県立淡路三原高等学校】



事業結果説明書

1. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

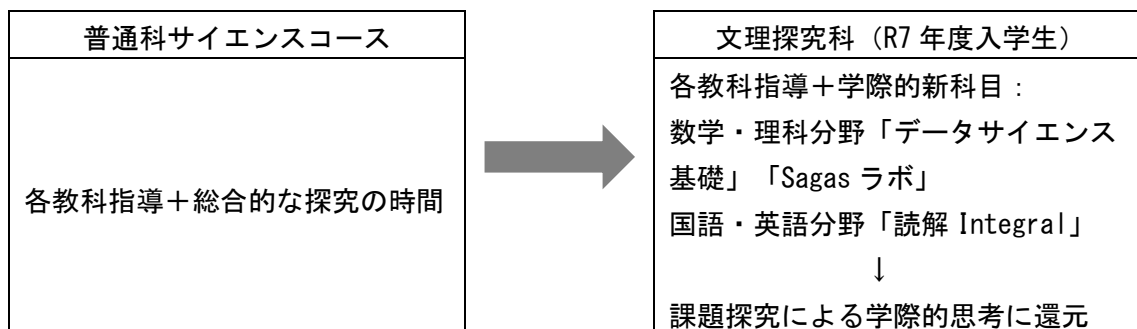
[illegible]

(2) 事業の実績の説明

ア カリキュラムの内容検討

(ア) 教育課程の編成について（令和7年度入学生における教育課程は別紙参照）

- ・探究学際領域の充実を図るための変更点



- ・総合的な探究の時間（Sagas）と学校設定教科の学年別配当時間

	1 年	2 年	3 年
総合的な探究の時間	1 単位	2 単位	1 単位
学校設定科目	1 単位	2 単位	

- ・「総合的な探究の時間」（Sagas）と学校設定教科の名称と主な内容

	名称（学年/単位数）	内容
総合的な探究の時間	Sagas ラボ（1 年/1）	探究活動の素養育成
	Sagas ゼミ（2 年/2）	課題探究活動
	Sagas プラス（3 年/1）	課題探究活動のまとめ
学校設定教科	データサイエンス基礎（1 年/1）	Sagas ラボと連携して統計データ分析
	読解 Integral（2 年/2）	Sagas ゼミと連携した社会問題読解と発表

(イ) 「総合的な探究の時間」（Sagas）の概要

* Sagas は通称名として使用。スカンジナビア語の Saga（冒険物語）と「探す」の意味

- ・1 年「問いをさがす」2 年「答えをさがす」3 年「自分をさがす」の順で探究的思考とキャリア形成の両面を支援する。

(ウ) 「総合的な学習の時間」（Sagas）の内容

- ・「Sagas ラボ」（問いをさがす）について

実施学年/単位数	1 学年/1 単位
目的	理科学的分野において、基礎的な観察、実験などを通して研究を行う。文献検索方法の習得および、科学的に探究する能力と態度を育成する。

内容	・ 文献検索の方法と引用の仕方 ・ 理学的実験における基礎技能の習得 ・ レポート作成と振り返りの作業 ・ データ解析方法の習得 ・ テーマの選択と発表
----	--

・ 「Sagas ゼミ」 （答えをさがす）について

実施学年/単位数	2 学年/2
目的	身近にある疑問からテーマを設定し、その答えを探す。文献検索を丁寧に行い、疑問から新たな疑問を創造する循環を繰り返し、丁寧にリサーチクエスチョンを設定する。検証方法においても、その手法や倫理的配慮を学び、多様な観点から考察を行う。探究活動を自分のキャリアのスタート地点と位置付けられるような活動とする。
内容	・ 興味関心をもとにゼミを決定 ・ 文献検索とリサーチクエスチョンの設定 ・ 複数の教員や校外指導者による口頭試問 ・ 研究計画の設定 ・ 実験やフィールドワークの実施 ・ 考察と発表活動
補足	・ 活動は個人、もしくはグループ ・ 教員は年間スケジュールを目安として提示する。テーマ設定から発表までを連続した活動とするが、探究心や進行状況に配慮し、そのスケジュールは最終的には「個人」に依存するものとし、納得解を最優先とする。

・ 「Sagas プラス」 （自分をさがす）について

実施学年/単位数	3 学年/1
目的	Sagas ゼミの内容を各生徒が振り返り、論文形式で記録する（A4 用紙 8 枚程度）。自己の思考を振り返り、最終的に改善方法と新たな疑問を提起する。教員や校外の指導員との面談を通じて、新たな自己の発見や進路開拓に活用する。
内容	・ 項目ごとに研究内容を記録 ・ 要旨の作成（英語） ・ 口頭試問 ・ 進路選択との関連性や志望動機への反映 ・ 小論文作成

（エ） 「総合的な学習の時間」 (Sagas) の年間指導計画

・「Sagas ラボ」(問いをさがす)年間指導計画

学期	指導内容	学習内容	時数
1	・オリエンテーション	年間予定とレポートの書き方を説明する。	1
	・研究テーマの設定	研究テーマを設定させる。	1
	・文献検索について 文献検索実習 引用と参考文献の書き方 参考文献の書き方実習	文献の検索の仕方、引用、参考文献の書き方等を学習し、実習する	2
	・実験結果の記録方法	実験結果の記録方法および実験レポートの作成方法を学習する。	2
	・実験レポートの作成方法	研究成果の論文およびポスターへのまとめ方を説明する。	
	・論文およびポスターのまとめ方		
	・測定実習	測定の実習をする。	1
	・統計処理実習	統計処理の実習をする。	1
	・理科基礎実験（物理）	物理の基礎的実験を行い、データの取り方、データの解析方法を習得させる。	2
	・実験のレポート作成		1
	・1学期の振り返り	実験のレポートを作成し、方法について振り返り、実験技術の定着を促す。	1
2	・理科基礎実験（生物）	生物の基礎的実験を行い、データの取り方、データの解析方法を習得させる。	1
	・実験のレポート作成		1
	・理科基礎実験（化学）	実験のレポートを作成し、方法について振り返り、実験技術の定着を促す。化学の基礎的実験を行い、データの取り方、データの解析方法を習得させる。	2
	・実験のレポート作成		1
	・近隣大学（吉備国際大学）での専門実験	実験のレポートを作成し、方法について振り返り、実験技術の定着を促す。	6
	・実験のレポート作成	吉備国際大学との連携により、大学教員の指導の下、より精巧な設備での専門的な内容の実験を行い、意欲向上を図るとともに、思考力・判断力を習得させる。	2
	・2学期の振り返り	実験のレポートを作成しながら、実験内容について考察する。	1
3	・発表会についてのオリエンテーション	1・2学期の授業で取り扱った内容について、興味あるテーマを一つ選択さ	1

	・発表準備 ・発表会 ・1年間の振り返り	せ、ポスターをパワーポイントで作成する。 パワーポイントの作成技術や操作方法、発表技能を身につけさせる。 発表会で発表する。 1年間の授業を振り返り、今後の課題探究について考えさせる。	3 2 1
--	--	---	-------------

・「Sagas ゼミ」(答えをさがす)年間指導計画

学期	指導内容	学習内容	時数
1	・オリエンテーション	・学びの目的と計画の提示	1
	・ゼミの提示、ゼミ決定	・担当教員が自分の指導ができるゼミの内容を示し、生徒がそれを見て関心のあるゼミを選択する。	2
	・課題レポート(文献調査)	・ゼミのテーマについて是非知っておいてほしい事柄について文献と複数の問いを提示する。それを読み、問いに関して考えたことを授業で共有。	4
	・研究テーマ・グループ決定	・テーマを元に共同で研究するグループをつくる。(1人でもよい)	3
	・キーワード検索	・テーマを理解するために知るべき事柄「～とは？」を設定し、調べる。	6
	・リサーチクエスション設定	・調べてもわからない、はっきりしない文献にはない価値のある問いを、5	2
	・リサーチクエスション文献調査	W1Hを使って立てる。大学教員(2)	2
	・リサーチクエスション再考	に助言をもらい、リサーチクエスションが適切であるか検証する。	2
		*()内の数字は大学教員の授業時間数	
2	・面談	・夏休みの成果を面談で発表する。	2
	・検証手法検討	・その後、必要な実験やフィールドワークなど、検証手法を検討、計画。	4
	・実験・フィールドワーク	・実験、フィールドワーク、ヒヤリングなどを実施。 記録並びに随時レポートをし、指導教員、班員と情報共有をする。	12
	・考察	・検証結果を元に考察し、内容を高校 ・大学教員(2)に内容発表し、質疑応答する。	6
	・中間発表	・これまでの成果を発表し、不十分な点を改善、検討する。	2
	・追加実験・調査検討	・中間発表で問題になった点につい	2

		て、追加の実験や調査を検討する。	
3	・追加実験・調査 ・まとめ、最終発表準備 ・最終発表	・追加の実験や調査を実施する。 ・これまで得られた結果をまとめ、最終発表の準備をする。 ・最終発表はポスターセッション形式で実施する。市長プレゼンを代表がパワーポイントで行う。大学教員(2)からも講評をいただく。	8 6 4

・「Sagas プラス（自分をさがす）年間指導計画

学期	指導内容	学習内容	時数
1	・オリエンテーション 〈論文作成〉 1. 第1章 研究の背景～リサーチ・クエス ション 2. 第2章 研究方法について 3. 第3章 結果と考察 4. 第4章 結論～引用文献 5. 要旨作成【英語】	- 学びの目的と計画の提示 1. <u>第1章</u> ・必要な資料を精査して、論理的に展開する。 2. <u>第2章</u> ・手順や方法をわかりやすく記す。 3. <u>第3章</u> ・使用する資料の精査を行い、効果的かつ公正に検証する。 4. <u>第4章</u> ・不足点を発掘しながら、論理的にまとめる。 5. <u>要旨作成【英語】</u> ・完成した論文を推敲し、さらに必要な事柄を明確に英語で記述する。	1 2 2 3 2 2
2	〈口頭試問とキャリア連携〉 1. 共有とディスカッション 【対生徒】 2. 口頭試問 【対教員】 3. 探究課題とキャリアの連携	1. <u>共有とディスカッション</u> ・同様のテーマ、異なるテーマなど、立場を変えて、他者と共有する。 ・テーマをディスカッションの材料として意見交換を行う。 2. <u>口頭試問</u> ・高校・大学教員(3)に内容発表し、質疑応答する。 *()内の数字は大学教員の授業時間数 ・態度、言葉などに留意し、相手を納得させる表現方法を身につける。 3. <u>探究課題とキャリアの連携</u> ・探究課題と進路とのつながりを強	4 2 8

	【個人ワークと面談】	化し、小論文作成や進路先の決定など、高校・大学教員(2)に助言をもらいながらキャリア開拓を行う。	
3	〈探究課題とキャリア連携〉 1. <u>探究課題とキャリアの連携</u>	1. <u>探究課題とキャリアの連携</u> ・2学期に設定したキャリア課題に対して、各自がPDCAサイクルで取り組む。教員との面談を通して、助言を得ながら目的を明確にして学び続ける。	9

(オ) 南あわじ市との連携協定と「総合的な探究の時間」(Sagas)との関係

・令和3年3月に学校が所在する南あわじ市との包括連携協を締結。探究活動において、これまで以下の協力を得ている。

項目	内容
コーディネート機能	地域に関わる探究活動について、担当部課や地元の人材を紹介。また、市役所内での協力体制構築。
「市長プレゼン」	探究活動の成果を市長や議会議員、教育関係者、各部課、および地域住民に向けてプレゼンテーションとして実施。
「Sagas 問答」	リサーチクエストに関して、教員とともに市役所職員が口頭試問を実施し、助言。
インタビューとデータ提供	生徒からの依頼に対して、適したデータの提供やインタビューでの助言。
補助金提供	南あわじ市の支援事業として、探究活動に必要な物品購入補助など。

これらの内容を先行実施することで、文理探究科での探究活動の円滑な実施に役立てる。

(カ) 学校設定科目設定の目的

・探究活動のための基礎的技能習得を目的とする。「総合的な学習の時間」(Sagas)の各年次活動の補助輪として、知の融合を図る。



(キ) 学校設定科目について

・「データサイエンス基礎」について

実施学年/単位数	1 学年/1
目的	データ分析、統計的推理の基本事項を学び、「Sagas ラボ」で得られたデータを処理、考査する力を身につける。情報機器を有効に使用し、データの評価から新たな問題提起につなげる実践活動を行う。
内容	・データ分析に必要な基礎知識 ・実験データの分析、考察 ・多様な統計データを用いた分析、評価演習

	・ 考察、評価の言語化と発表 ・ 大学教員による評価と振り返り
--	--

・ 「読解 Integral」について

実施学年/単位数	2 学年/2
目的	科学倫理、経済、社会問題の文献購読を行い、思考を整理し、意見をまとめる。日本語、英語文献で共通トピックを扱うことで、背景知識の習得と他教科での既習知識との関連を見出す。英語で要旨作成を行い、日本語で意見発表する。
内容	・ 大学教員からのトピック提示 ・ 日本語、英語文献の読解演習 ・ リサーチのための自由文献検索（日英） ・ まとめと意見の発表 ・ 大学教員からの評価と振り返り

(ク) 学校設定科目の年間指導計画

・ 「データサイエンス基礎」の年間指導計画

学期	指導内容	学習内容	時数
1	・ オリエンテーション	データサイエンスの目的と意義、学習の年間計画を説明する。	1
	・ データの分析	データの代表値や四分位数、分散と標準偏差などデータの分析に必要な基礎知識を学習する。	2
	・ 統計的な推測	推定や仮説検定などを中心にデータの分析に必要な基礎知識を学習する。	2
	・ 情報機器を用いた代表値の算出	表計算ソフト等を利用して、データ分析の具体的な方法を学習する。	2
	・ 大学教授の講義	実験や観察からのデータ採取の仕方や得られたデータの分析方法について学ぶ。	2
	・ 理科基礎実験(物理)のレポート作成	探究活動 Sagas ラボで行った物理実験で得られたデータを分析し、考察を行い、実験レポートを作成する。	2
	・ 1 学期の振り返り		1
2	・ 理科基礎実験(生物)の実験レポート作成	探究活動 Sagas ラボで行った生物実験で得られたデータを分析し、考察を行い、実験レポートを作成する。	4
	・ 理科基礎実験(化学)の実験レポート作成	探究活動 Sagas ラボで行った化学実験で得られたデータを分析し、考察を行い、実験レポートを作成する。	4

	・ 大学教授の講義	最先端の実験や研究を学びながら、どのようにデータを分析し、結論付けるかを学習し、自分たちの方法や考察が妥当であるかを検証する。	3
	・ 統計データ分析	実際の統計データを用いて情報の収集、整理、整形、モデル化、可視化、分析、評価、実行、効果検証などのデータ分析を行う。	6
	・ 2学期の振り返り		1
3	・ 情報活用理論	データに基づく現象のモデル化やデータ処理を行い、解釈・表現する方法について理解する技能を身に付ける。	1
	・ 発表会についての準備	パワーポイントの作成技術や操作方法、発表技能を学び、1・2学期で行った理科実験のうち、より自分の興味関心がある実験について発表する準備をする。	2
	・ 発表会	発表会で発表する。	2
	・ 大学教授の講義	発表会についての助言・講評をいただく。	2
	・ 1年間の振り返り	1年間の授業を振り返り、今後の探究活動について考えさせる。	1

・「読解 Integral」の年間指導計画

学期	指導内容	学習内容	時数
1	・ オリエンテーション	学びの目的と計画の提示	1
	〈倫理分野〉		
	1. 課題提示	1. <u>課題の理解</u> ・ 課題について大学教員(1)から紹介。*()内の数字は大学教員の授業時間数	2
	2. 日本語・英語文献の読解導入) 課題文献	2. <u>読解・整理・分析</u> ・ 課題文献の読解方法を学ぶ。	12
	3. 思考の整理・分析 発展) 自由文献検索	3. <u>文献検索とディスカッション</u> ・ 日英の関連文献を探し、読解する。 ・ 意見交換し、思考を深める。	4 2
	4. ポスターによるまとめ・発表	4. <u>まとめ・表現</u> ・ 大学教員(1)に助言をもらいながら、ポスターに意見をまとめる。 ・ 自分の考えを日英で表現し、論理的に発表し、質問に答える。	2

	5. 振り返り	5. <u>講評と振り返り</u> ・大学教員(1)から上記まとめへの講評をいただく。	1
2	〈人口政策分野〉 1. 課題提示 2. 日本語・英語文献の読解 導入) 課題文献 3. 思考の整理・分析 発展) 自由文献検索 4. ポスターによるまとめ・発表 5. 振り返り	1. <u>課題の理解</u> ・課題について大学教員(1)から紹介。 2. <u>読解・整理・分析</u> ・課題文献の読解方法を学ぶ。 3. <u>文献検索とディスカッション</u> ・日英の関連文献を探し、読解する。 ・意見交換し、思考を深める。 4. <u>まとめ・表現</u> ・大学教員(1)に助言をもらいながら、ポスターに意見をまとめる。 ・自分の考えを日英で表現し、論理的に発表し、質問に答える。 5. <u>講評と振り返り</u> ・大学教員(1)から上記まとめへの講評をいただく。	2 16 7 2 1
3	〈経済・環境分野〉 1. 課題提示 2. 日本語・英語文献の読解 導入) 課題文献 3. 思考の整理・分析 発展) 自由文献検索 4. ポスターによるまとめ・発表 5. 振り返り	1. <u>課題の理解</u> ・課題について大学教員(1)から紹介。 2. <u>読解・整理・分析</u> ・課題文献の読解方法を学ぶ。 3. <u>文献検索とディスカッション</u> ・日英の関連文献を探し、読解する。 ・意見交換し、思考を深める。 4. <u>まとめ・表現</u> ・大学教員(1)に助言をもらいながら、ポスターに意見をまとめる。 ・自分の考えを日英で表現し、論理的に発表し、質問に答える。 5. <u>講評と振り返り</u> ・大学教員(1)から上記まとめへの講評をいただく。	1 9 5 2 1

(ケ) 令和6年度中の先行実施について

- ・理科学校設定科目「課題探究」にて、(エ)の「Sagas ラボ」を先行実施中。
- ・2年「総合的な探究の時間」にて、(エ)の「Sagas ゼミ」を1単位にて先行実施中。

- ・ 3 年「総合的な探究の時間」にて、（エ）の「Sagas プラス」を先行実施中。

（コ）令和 6 年度中の外部講師活用実績について

・ 外部講師

日付	所属・役職	講師名	場所
6/26	神戸大学国際人間科学部 教授	伊藤 真之	オンライン
7/25	関西看護医療大学看護学部 准教授	西村 由美子	本校
8/6	広島大学大学院社会科学部 准教授	松永 京子	広島大学
8/7	筑波大学図書館情報メディア系 教授	三河 正彦	筑波大学
8/7	マツダ株式会社技術本車体技術部 部長	宮重 聡平	本社
8/8	株式会社チームラボ 取締役	田村 哲也	本社
8/9	東京大学大学院 数理科学研究科 准教授	松井 千尋	東京大学
8/19	大阪大学全学教育推進機構 教授	中村 征樹	大阪大学
8/20	京都大学大学院エネルギー科学研究科 教授	三宅 正男	京都大学
12/17	神戸市外国語大学国際関係学部 准教授	中嶋 圭介	オンライン
12/19	兵庫県自然保護指導員	竹田 俊道	市内慶野松原
2/19(*)	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科長	藤原 道郎	本校
3/10(*)	広島大学大学院社会科学部 准教授	松永 京子	オンライン

(*)は予定

- ・ その他、サイエンスコースの日経 STEAM、リクルート「高校生 Ring」への参加。

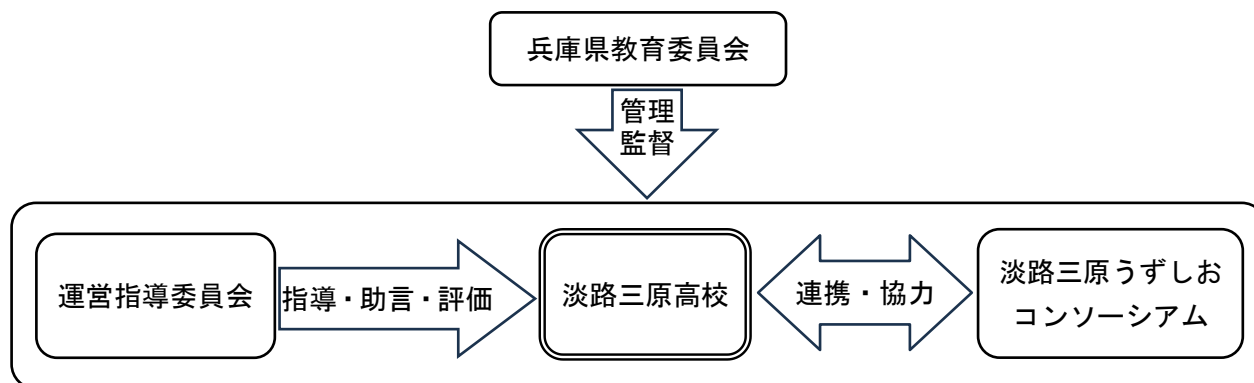
（サ）今年度の成果と課題

本事業に採用されたことにより、全学年で「総合的な探究の時間」の年間予定を見直す機会となり、より多くの教員が探究活動に関わる仕組みづくりができた。時間数の配置などについては、今年度の実績と反省をもとに、変更の必要性も検討課題として上がっている。また、「総合的な探究の時間」(Sagas)においては、南あわじ市からの支援も充実していることから、市役所職員と相談しながら、来年度はさらに生徒が地域を身近に感じ、その諸問題に主体的に取り組む内容に改善する予定である。教員には、他の先進校の視察や発表会への参加を促し、学校全体の取り組みとして、教員のスキルアップにも努めたい。

イ 管理機関における実施体制や事業の管理方法

（ア）実施体制

下図のとおり実施体制を構築し、次の方法により事業を管理



(イ) 事業の管理方法

兵庫県教育委員会(以下「県教委」という)は、運営指導委員会及びコンソーシアム会議に参画することにより、事業の進捗状況等を把握するとともに、県独自の魅力アップハイスクール事業等他事業とも関連付け、本事業が汎用性の高い研究となるよう指導・助言を行う。

■運営指導委員会

県教委及び外部機関などを構成員とした「運営指導委員会」を設置し、専門的見地から指導、助言、評価を行う。運営指導委員会は年2回開催し、進捗状況を確認する。また、年度途中においても、構成員の専門分野において、適宜、探究活動運営に関する助言を行う。

■コンソーシアム会議

- ・コンソーシアムの全構成員参加による会議を開催し、連携・協働体制を評価し、改善等に向けた協議を行う。
- ・コンソーシアム会議は探究活動成果発表会当日に開催するものとし、その成果と改善点を評価し、次年度のカリキュラムおよびシラバスに反映する。

(ウ) 生徒の研究成果発表会

県教委、運営指導委員会、コンソーシアム構成員及び南あわじ市職員、中学校教員、地域住民、保護者などに公開する生徒の研究成果発表会を年1回行い、生徒の学びの成果について指導助言、評価を行う。

(エ) 教育委員会による指導

教育委員会の指導主事が学校の担当者と連絡を取り、事業の取組状況の把握や効果的な取組について指導と助言を行う。

(オ) 今年度の成果と課題

多彩な専門分野の委員から探究活動についての期待とその方法をご指導いただき、育てたい生徒像やカリキュラムの目的を審議し、教員で具体的に共有することができた。全体会議の回数にこだわらず、各委員の専門分野を生かし、生徒に対しても直接助言いただく機会を重視したことで、多くの方に本校の教育内容を理解し、関心を持っていただくことができた。会議の日程調整にも限界があるので、次年度は各委員が少なくとも年に一度は教育内容に触れる機会を準備し、学校をより身近に感じていただきたいと思います。

ウ 高等学校における事業の実施体制や管理方法について

(ア) 実施体制

下記のとおり実施体制を構築し、次の方法により事業を管理

■文理探究科推進委員会

校長、教頭、教務部長、進路指導部長、キャリア創造部長、コーディネーター

部	役割
教務部	・ 本事業に関する教育課程の編成、実施 ・ カリキュラム委員会との連携

進路指導部長	・ 本事業におけるキャリア教育と進路指導の一体化
キャリア創造部 (コーディネーター所属)	・ 「総合的な探究の時間」「学校設定科目」の原案 ・ 授業の企画、調整、校内外関係機関との折衝 ・ ルーブリック、評価アンケートの立案、実施

(イ) 反映方法

表の内容を審議し、継続的に職員会議で協議、改善のサイクルを繰り返す。また、各教科活が文理融合科目と相互作用し、生徒が主体的に学ぶ目的を意識できるように、各教科と協議できるようにカリキュラム委員会と協働する。

エ 運営指導委員会の体制および取組

(ア) 体制

所属	氏名	主な実績
神戸市立外国語大学	中嶋 圭介	国際関係学科准教授 神戸グローバル教育センター長
四国大学	松重 和美	四国大学学長 京都大学名誉教授
(株) 海空	大継 康高	イベント企画・運営会社社長 令和5年度「ふるさとイベント大賞」受賞
青山学院大学	大本 晋也	コミュニティ人間科学部特任教授 元国立淡路青少年交流の家所長
兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	倉橋 良太	設置者代表

(イ) 取組

- ・ 事業の進捗に対する指導助言
- ・ 事業の改善・充実に向けた情報提供
- ・ 事業の成果検証、評価についての学校の自己評価の妥当性について評価
- ・ 成果発表会における生徒の学びの評価

(ウ) 今年度の成果と課題及び次年度への反映方針

年2回開催の開催では、遠隔地からも本校にお越しいただき、非常に活発なご意見をいただいている。ムーブリックやアンケートの内容に関しても、適宜、相談しながら進めることができ、本事業計画の改善に寄与している。次年度からは、本年度作成した評価シートを継続評価することにより、その分析、改善に役立てたい。

オ コンソーシアムの体制および取組

(ア) コンソーシアムとの連携・協力の考え方

文理融合の視点、地域と国際社会を結ぶ総合的思考力を、知識獲得と体験活動を通じて習得するために、このコンソーシアムを地域と国際社会との懸け橋と位置付ける。コンソーシアム

委員の幅広い知見とその社会的つながりから、未知の領域までを探究できる教育活動を実施する。

(イ) コンソーシアムの体制

所属	氏名	主な実績・所属・役職
京都大学大学院	三宅 正男	エネルギー応用科学専攻 材料プロセス科学分野教授
吉備国際大学	相野 公孝	農学部教授
関西看護医療大学	江川 隆子	看護学部教授 学長
関西リハビリテーション 専門学校	沖田 任弘	地域医療・保険分野の教育機関 専門学校校長
ホテル・ニューアワジ	木下 学	日本でも有数のホテル事業経営 代表取締役
(株)日東コンピュータ サービス	石田 一成	IT 分野で様々な事業を展開 代表取締役
理化学研究所	Y00 Sa Kan	生命機能研究センターチームリーダー
兵庫県農林水産技術総合 センター	神藤 武嗣	農業の先端技術の研究 センター所長
南あわじ市	柏木 映理子	本校支援事業コーディネーター 南あわじ市教育委員会 スポーツ青少年課課長

(オ) 今年度の成果と課題

「総合的な探究の時間」や長期休業中の特別活動で、生徒はコンソーシアム委員の所属する大学、企業への訪問を行った。また、来校しての講義や発表会での評価や指導なども行い、多くの支援をいただいた。特に南あわじ市役所においては、本校との連携調整を司る職員がおり、探究活動において多大なご協力をいただいている。課題として、年間計画をより効率的に立案し、可能な限り年度当初に構成員の方々に依頼し、負担感を軽減できるように取り測りたい。

カ コーディネーターの配置及び活動内容

(ア) コーディネーターの配置

本校コーディネーター 坂田 裕之（月、火曜日勤務、年間 80 時間）

(イ) 活動内容

- ・カリキュラム及び教育方法の改善充実
- ・「総合的な探究の時間」における指導
- ・連携機関の新規開拓および連絡調整
- ・「総合的な探究の時間」や学校設定科目の学習計画と助言

(ウ)今年度の成果と課題

元高校教諭（理科）で探究活動指導に長年携わってきた人物である。また、大学、企業、地域の各種情報を把握している人材として生徒の活動と地域課題の連携を行った。また、自ら「総合的な探究の時間」で理科分野の指導を行うことで、そのノウハウを他の教員と共有し、今後の探究活動の方法論を計画している。教員以外の地域人材で、既定の時間数勤務できる候補者を探すことが大変難しい。また、年間 80 時間という限られた範囲で業務を行うためには、文理探究科推進委員会のメンバーとの明確な分業と協力が必要である。教員とのコミュニケーションの在り方を含め、これらを次年度の課題とする。

キ 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者の説明の実施状況

(ア)新学科の設置及び設置に向けた検討状況

兵庫県が設置する3つの普通科新学科、文理探究科（学際領域に関する学科）、地域科学探究科（地域社会に関する学科）、STEAM 探究科（STEAM に関する学科）から、既存のサイエンスコースの学習目標や内容を発展させ、生徒がより主体的に進路選択を行う機会となることを目的として、R7 年度から文理探究科に移行する。対象生徒は1クラス 40 人。

(イ)係者への説明の実施状況

6 月から近隣の中学校 6 校を訪問し、特に3年生担当者に向けて、サイエンスコースとの違いやアドミッション・ポリシー、入学者選抜方法などについて新学科の説明を行った。また、同時期に、近隣の学習塾に対しても、個別に説明を行った。

また、8 月 22 日 23 日にオープン・ハイスクールを行い、中学生 303 名、保護者 180 名に対して新学科の説明を行った。10 月 19 日には文理探究科希望者を対象としたオープン・ハイスクール（Sagas Day）を開催し、学際科目や探究活動の目的について理解を深めていただくために、33 名の中学生と 29 名の保護者に対し、2 時間半の体験授業を開催した。秋には近隣2校からの依頼で、中学3年生の生徒を対象に、新学科の説明と質疑応答を行った。

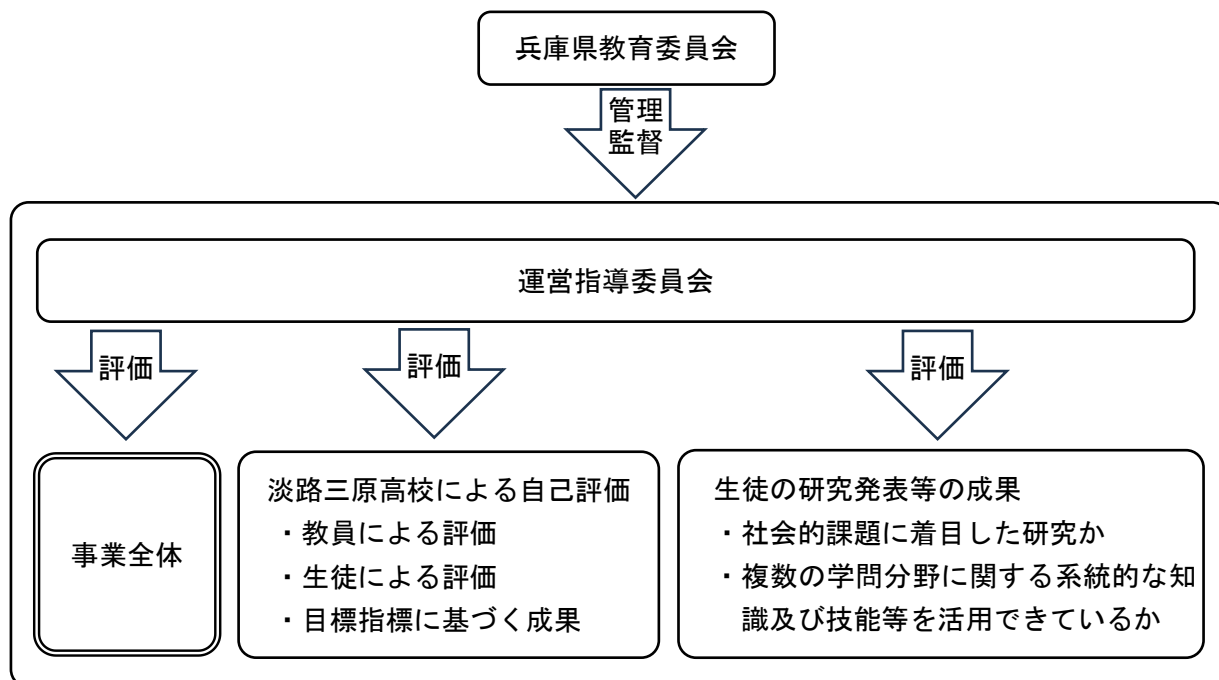
(ウ)今年度の成果と課題

普通科サイエンスコースの評価実績から、文理探究科、特に探究活動の目的の周知に困難を感じながら広報活動を行った。サイエンスコースは勉強熱心で、理系進学に強いイメージが定着していたため、保護者からの不安も聞かれた。淡路島全体における急激な少子化進行と神戸地区への学区拡大における島外流出が重なり、来年度は普通科、文理探究科ともに定員割れを予想する。南あわじ市から近隣の洲本市の高校への志望者が増加傾向であるが、その学力層はかつて三原高校、淡路三原高校を選んだ層に重なるため、広報の手法に工夫が必要である。

一方で、10 月実施のオープン・ハイスクール（Sagas Day）のアンケートでは、学科説明や体験授業に対して、非常に高い評価をいただいた。次年度は、できる限り多くの中学生にワークショップを体験してもらえる機会を設けて、近隣の中学生に選ばれる学校づくりを行う必要がある。

ク 管理機関における事業全体の成果検証・評価

(ア) 事業全体の成果検証、評価のための体制



(イ) 事業全体の成果検証、評価の考え方

- 学校の自己評価を基に、運営指導委員会及び県教委が成果検証、評価を行う。

【成果検証、評価の方法】

- ・ 学校において、教員、生徒、及びコンソーシアム構成員を対象としたアンケートによる評価等を基に本事業の取組について自己評価を行う。
- ・ 運営指導委員会において、学校の自己評価の妥当性について評価を行う。

- 生徒の研究成果を基に、運営指導委員会及び県教委が成果検証、評価を行う。

【成果検証、評価の方法】

- ・ 年1回開催する生徒の研究成果発表会について、教員、運営指導委員会、コンソーシアム構成員、市役所職員、地域住民、保護者、県教委が参加し、アンケートを実施。テーマ設定のオリジナリティ、リサーチクエスションの妥当性、検証方法、発表方法、主体性について評価を行う。
- ・ 運営指導委員会において、生徒の研究成果の評価を行う。

(ウ) 今年度の成果と課題

令和6年度の評価については、学校の自己評価、成果による評価とも、年度末のアンケート実施を予定しており、具体的な評価の分析等は令和7年度当初に実施し、事業改善につなげる。また、次年度からは生徒アンケートとルーブリック評価の推移を重ねて分析し、育てたい生徒像に近づいているか、数値化して評価したい。

ケ 管理機関による支援体制

(ア) 県教委による支援体制

予算については、実施計画に基づき適切に執行されている。人員についても、事業の適切な実施に対応するだけの配置を行っている。事業指定校の教育活動の推進を支援するため、適宜必要な情報を提供するとともに、質問や相談をしやすい体制を構築している。

(イ) 今年度の成果と課題

関係部課と連携を密にとりながら、必要な情報を共有してきた。次年度以降も指定校が事業の目標を達成できるよう、必要とされる支援を継続していくとともに、教育活動の充実のための物心にわたる環境整備を行う。

コ 成果普及のための取り組み

(ア) 中学校・塾訪問、オープン・ハイスクール、成果発表会

- ・ 複数回の中学校訪問で教員、生徒向け説明会、近隣の塾訪問
- ・ 夏・秋のオープン・ハイスクールでの内容説明と体験授業実施
- ・ 地域住民を対象とした成果発表会を実施。

(イ) ホームページ、Instagram、南あわじ市広報誌での成果の発信・普及

- ・ 学校パンフレットの掲載
- ・ 適宜、関連事業や発表会の様子を掲載

(ウ) 各種発表会、コンテストへの参加

- ・ 兵庫県教育委員会主催の探究活動に関わる発表会参加
- ・ 日本経済新聞社主催「日経 STEAM」への参加（3年連続）
- ・ リクルート社主催「高校生 Ring」への参加（最終審査まで通過）

(エ) 視察、また視察受け入れによる成果共有

- ・ 県外3校への視察。見学、交流と成果や資料の共有（若手教員を中心に7名参加）
- ・ 県外、県内指定校からの視察受け入れ（2件）。

(オ) 今年度の成果と課題

年度当初、中学校からの反応は鈍く、普通科サイエンスコースを改編し、文理探究科とする必要性を認知していただくことは難しかったが、複数回の中学校訪問や、オープン・ハイスクールへの中学校教員の参加もあり、理解は徐々に深まっている。また、南あわじ市役所、保護者、地域住民の方に学校に来ていただき、ポスターセッションで、質疑応答に参加していただけたことは、本校の未来を示す良い機会となった。次年度はホームページでの情報提供も充実させ、より多くの方が情報収集していただけるように工夫したい。

サ 国指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

(ア) コンソーシアム

事業終了後もコンソーシアムを引き続き設置できるように、事業指定の３年間でコンソーシアムとの関係性を構築することを今後２年間の目標とする。

(イ) コーディネーター

コーディネーター業務のマニュアル化を進め、指定事業終了後は、３年間の実績を活用し、事業担当のキャリア創造部で複数の教員を校内コーディネーターに指名できるように準備を進める。

(ウ) 校内体制

新学科設置後はキャリア創造部を中心に、校内で各部が連携しながら「総合的な探究の時間」および学校設定科目の具体的カリキュラムを改善、推進していく。文理探究科推進委員会が中心となり、文理探究科以外の生徒にも文理融合の学び方を推進していく。

(エ) 今年度の成果と課題

今年度は文理探究科の設置前年度であり、各連携機関との連携内容や授業カリキュラムの企画などを一部の教科科目で先行実施するに留まったため、具体的な記録やマニュアル化は次年度以降の課題となる。コーディネーター業務は多岐に渡るが、渉外業務が多いことから、完全縦割りの分業にはできない。校内でこの業務を安定して継続していくためには、人事異動に伴う引継ぎを含め、校外の人材との関係構築と新規開拓のための情報が要となる。育てたい生徒像を明確にし、目標達成のために、「変えずに継続すべきこと」と「担当者が柔軟に対応すること」をリスト化して、経験値で取り組みが改善する循環を創りたい。

シ 他の事業との関係

本校は、令和３年３月に南あわじ市、国立淡路青少年交流の家、兵庫県立淡路景観園芸学校と「南あわじ市の地域創生にかかる包括連携協定」を締結し、地域の発展とその担い手の育成のため、探究活動を通して、高校生が地域社会の課題解決に関わる機会を創生してきた。本校コーディネーターと南あわじ市役所スポーツ青少年課が中心となり、学校と地域をつなぐコーディネート業務を担っている。今年度はこの協定が終了する節目と重なったが、毎年、丁寧な事業評価と改善を繰り返したことで、また、本事業の指定を受けたことで、校内外での理解が促進され、カリキュラムの改善などの結果、来年度からの協定期間延長が決定した。課題としては、本事業におけるコーディネーター業務を担う人材確保の難しさが挙げられる。南あわじ市役所との連携は本事業においても欠かせないものであるため、本校コーディネーターの素養として、地域活動に積極的であること、コミュニケーション能力や事務処理能力に長けていることが必須である。南あわじ市との連携協定と本事業が相乗効果を生み、より地域に愛される学校づくりができるよう、本校の特色ある教育活動として定着を目指していきたい。

運営指導委員会

第1回運営指導委員会

日 時：令和6年7月29日（月） 14：00～15：30

会 場：兵庫県立淡路三原高等学校 応接室

出席者：運営指導委員：中嶋圭介、大本晋也、松重和美、大継康高、永野祐一郎

本校職員：大塚剛啓校長、斎藤司教頭、黒田陽子主幹教諭、林友哉教諭、芝彩紗教諭

内 容：1 学校概要・「文理探究科」説明等（斎藤）

2 探究活動の現状について説明（黒田）

3 質疑、指導・助言

- ・学校の存在意義、淡路三原高校のアピールポイント、ストロングポイントは何か。サイエンスコースも普通科も定員割れに対して魅力アップのきっかけにしないといけない。（中嶋委員）
- ・地域活性化や地域と高校の一体化について、南あわじ市に高校を存続させるために、高校生が地域と連携していく取り組みが必要。サイエンスコースが文理探究科になることがその起爆剤にできたらよい。楽しい、おもしろいという経験を学校の特色に出していけたらよい。（中嶋委員、松重委員）
- ・高校における文理融合について、リベラルアーツの観点からも、知識のレベルが上がると文系と理系の境目はなくなる。基本的にはどの分野も学び、その中で文系や理系の専門性が出てくる方がよい。（中嶋委員）
- ・南あわじ市の四者協定によって、行政が高校に関わりだした。高校生が市に地域課題解決を提案して行動するところまで取り組む。地域に根差した若者を育成していく。（大本委員）
- ・自分たちの地元を盛り上げる取り組み、自分たちの力で何かを成すという成功体験が淡路島の魅力に気付くきっかけにもなる。移住者の方のおもしろいプロジェクトが多くあるので参考にしてみる。（大継委員）
- ・教員がポジティブに探究活動に関わる。ゴールはわからないけど一緒に頑張ろうと伴走していくことが大切。（中嶋委員）
- ・教員にとって慣れない取り組みに対して、チームビルディングで行こうという意識づけが大切。（松重委員）
- ・みんなが納得して Sagas に取り組むことができるように、学年団の先生たちとのワークショップ等で課題を共有する。（大本委員）
- ・生徒が受動的な探究活動にならないように、テクニカルなリサーチスキルを伸ばしたり、成功体験を積めるような教員のかかわり方が重要。（中嶋委員）
- ・どういう風に探究をコーディネートするのか。時には教員が前に出ることも大事。何かきっかけになるようなキーワードやフレーズを与えることで子どもたちは興味を持つようになる。（大本委員）

第2回運営指導委員会

日 時：令和7年3月5日（水） 13：00～13：50

会 場：洲本市健康福祉館 3階 会議室

出席者：運営指導委員：中嶋圭介、大本晋也、松重和美、大継康高、倉橋良太

本校職員：大塚剛啓校長、斎藤司教頭、黒田陽子主幹教諭、林友哉教諭

内 容：1 令和6年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業」報告（斎藤）

2 質疑、指導・助言

- ・外部講師の活用について、講演テーマや探究活動との関連性を明記した方がよい。（中嶋委員）
- ・「今年度の成果と課題」について、教職員間で共有しておくとうい。（中嶋委員）
- ・教員の指導力・キャパシティ・学びのクオリティ・外部研修等でどういところうが足りていないのか、課題がクローズアップする方がよい。（中嶋委員）
- ・オープンハイスクール等での中学生への宣伝の仕方について、今の成果が見えにくいのではないか。学びの質が上がることで今後どうなっていくのかを明示するとよい。（中嶋委員）
- ・コーディネーターの活用について、地域の地域起こし協力隊や南あわじ市役所の退職者といった、長く地元のことを知っている人に協力してもらい、地域とのつながりを強化する。（中嶋委員）
- ・学校設定科目「Sagas ラボ」「Sagas ゼミ」「Sagas プラス」の指導計画について、内容が理系に偏っているのではないか。分析ツールのトレーニングが中心で、問いを深すトレーニングが足りていないのではないか。また、「Sagas プラス」では、どのように進路と関連づけていくのか。（中嶋委員、永野委員）
- ・コーディネーターも運営指導委員会に参加して欲しい。（大本委員）
- ・広報として、文理融合の意義をもっと各中学校、中学生に見せるよう工夫が必要。志願者が定員に満たないので、より地域の人に淡路三原のことを知ってもらう。小学校や中学校と高校で何か連携できることはないか。また、自治体とも連携して地域に若い人が残るにはどうするか考える。（大本委員、松重委員）
- ・高校1年生が、「問いを深す」ために、興味を持つようなネタやコンテンツを提供して、選ばれる。自治体の抱える課題に対して、若い人の考えを切り口にどんな取り組みがあるのか、どんなことならできそうか、具体的でおもしろそうと感じられる見せ方の工夫や体験が欲しい。（大継委員）
- ・学校外での体験や発表会での手ごたえはどうか。楽しいだけでなく、探究活動への動機づけができているか、振り返りが必要。（永野委員）
- ・文理探究科1期生の取り組みや活躍の成果をホームページやSNS等で発信する。情報を知る手段がスマートフォン中心になりつつあるので、見せ方の工夫が必要。（永野委員）

2. Sagas Project 実践内容

(1) Sagas I (18 回生)

令和6年度 1学年 Sagas I「問いをさがす」

対象クラス

1年1～4組（156名）＊サイエンスコース以外

目的 ～自分は何に関心があり、何が知りたいのか～

Sagas ミニ

- ①テーマ選択を通して、自分は何に関心があるのか考える。
- ②文献検索の方法と記録の仕方を習得する。
- ③個人での調べ学習と、同じテーマ内でのミーティングを通じて、多角的な視点の重要性を実感する。
- ④学期を通して調べたことから、具体的なリサーチクエスションを設定する。
- ⑤発表ポスターに図表を用いて、調べたことをわかりやすく提示する。
- ⑥良い声で発表する。また、発表者の発言をよく聞き、質問する。

探究技法ワークショップ

- ①課題の見つけ方のコツを知る。
- ②南あわじ市長や地域の起業家からの講話から地域課題について関心を深める。
- ③新書選びを通じて、進級後の探究課題のヒントを探す。

探究活動の計画

- 1学期：Sagas ミニ①
2学期：Sagas ミニ②
3学期：探究技法ワークショップ

学習スケジュール

時数	日付	内容
1-3	4/19-5/10	「先生と話そう」 Sagas ミニ①オリエンテーション テーマ一覧配布
4-8	5/24-6/28	テーマ決定後、文献購読。調べ学習開始 同じテーマの生徒と Meeting
9-11	9/6- 9/20	夏休みの体験活動発表会 リクルート社の興味関心ワーク
12-20	10/4- 12/6	Sagas ミニ②テーマ一覧配布、テーマ決定 文献購読後、調べ学習開始 同じテーマの生徒とミーティング 教室内でのポスター発表
21	1/10	Sagas ミニに関するアンケート調査 課題発見ワークショップ①

22-24	1/17-31	課題発見ワークショップ②③④
25	2/7	株式会社海空 大継康高氏講演会
26	3/10	南あわじ市長講演会

Sagas ミニテーマ一覧

* テーマは1学期、2学期とも共通。選択制。テーマごとに参考文献を提示。

担当教科	テーマ名
英語	「女の子だから」は呪縛のことば？女の子はどう生きるか
英語	消滅する言語は守るべきか？それとも共通語を統一すべきか？
国語	「。ハラ」って何ですか？
国語	「やばい」で会話できるのって現代人（私たち）だけ？
国語	今に続く古典作品
国語	電子書籍と紙書籍どっちがいい？
社会	身近な世界遺産を考えよう！
情報	AI が生成した絵と人が描いた絵は見分けられる？
数学	「魅力的な声」ってどんな声？
英語	日本は「世界で最も魅力的な国」1位！？～世界から見た日本～
理科	なぜ空は青いの？虹ってなぜ見えるの？光の不思議な世界へ
理科	超電導リニアって？東京～大阪間が1時間！？
保健	運動は健康にいいのか
保健	睡眠と健康について
体育	アスリートにみる動きの正体
体育	ライフキネティクストレーニングが運動に与える影響
英語	なぜ外国語を学ぶのか？
数学	自動車はなぜ動き、なぜ曲がることができるのか？
理科	脳と意識の関係
数学	アニメのキャラクターは数学で描ける？
数学	そのもったいない待ち時間！人生の時間を有効に利用する方法の探究
数学	インド式算術とは？日本との違いは？
社会	「レ＝ミゼラブル」でみる革命の時代
家庭	食品ロスが減らないのはなぜ？

活動風景



Sagas I (Sagas ミニ) 振り返り自己評価シート

5 件法 (5:とてもあてはまる 4:ややあてはまる 3:どちらともいえない 2:ややあてはまらない 1:全くあてはまらない) で実施。

知識 技能	参考文献中の知らない言葉を調べながら丁寧に読むことができた。	3.85
	自分で適切な文献を探し、文献リストに正しく記録できた。	3.74
	読んだ文章の丸写しではなく、要点や気になった言葉をメモできた。	3.70
	授業で調べた内容に関して、感想と次の計画が書けた。	3.58
	読みやすい字で記録できた。	3.63
思考 判断 表現	調べた中で気になる言葉を見つけて、次の疑問を設定できた。	3.77
	具体的なリサーチクエスチョンを設定できた。(No magic word!)	3.43
	リサーチクエスチョンに関連するタイトルをつけてポスター作成できた。	3.57
	ポスターにノート記録をまとめて、図表を使ってわかりやすく作成できた。	3.23
	今後の調査にアンケート以外の方法を設定できた。	3.01
主体性 学びに向かう力	わからないことがあれば、友達や教員に聞いたり調べたりした。	3.50
	集中して、考えながら、40 分間ノート記録を取ろうとした。	4.17
	授業外でも、調べていることに関連した気づきがあればメモした。	2.59
	発表を聞いてくれる人の方を見て、ゆっくり丁寧に発表しようとした。	3.71
	発表する人の方を見て、相槌を打つなどしながらしっかり聞こうとした。	3.92
	発表を聞きながら、質問したいことを探してメモし、質問した。	3.65
	今回のテーマの中で、知りたいことを知り、新しいことを発見できた。	3.82
	調べること、新しいことを知ることが楽しかった。	3.84
自己評価	今回のポスター、発表の自己評価は？	3.56

自由記述:「Sagas ミニについての感想を書いてください。」(抜粋)

- ・自分が気になっていたことを、授業を通して多くのことがわかった。テーマのことだけでなく、テーマに沿って少し違うことや、似ていることなどがわかった。これらのことを次に活かしていけるのは面白いものだった。
- ・Sagas のような、自分で言葉の意味や文章の意味を調べ、追求していく活動は初めてだったので、難しかった。自分なりに調べてノートにまとめて、聞く人がわかりやすいように具体的なところは丁寧に、簡潔にするとところは簡潔にして、誰が見てもそのテーマについて知れるように工夫しました。
- ・知っているようで知らなかったことがたくさんあって面白かったです。面白いと感じたことをたくさん調べて、深めることができたと思います。
- ・Google 検索で知りたかったことが出てこなかったりして検索方法を工夫したりする必要があったのが大変だった。

活動の成果

- 1) 自分の関心のあるテーマについて調べ続けるという地味な活動だが、想像以上に集中してノートをとっており、探究活動の入口としては良い活動であった。
- 2) インターネット検索が中心であったが、検索ワードを設定することに苦勞する生徒が多く、インターネットの使い方に関して、指導できる機会となった。
- 3) 発表を除き、50分授業のほとんどが自学習であったが、自由記述に「おもしろかった」「楽しかった」「達成感があった」と答える生徒が多く、生徒の達成感を促す授業形態（個別最適化）について、教員が考え直す機会となった。
- 4) 同じテーマの生徒が集まり、ミーティングを開いたことで、テーマの広がりを実感できた生徒が多かった。

課題

- 1) 生徒たちにとって、タブレットやスマートフォンは身近であるが、調べるツールとしては活用できない。「調べ方」「サイトの信頼性判断」「表やグラフの言語化」などに課題が残る。
- 2) 調べたことを消化して、リサーチクエストを立てる作業にはもっと時間をかける必要がある。
- 3) 授業時間内は熱心に調べても、授業外で主体的に調べる生徒が少ない。
- 4) 25名の教員がテーマを与えたが、学期内で進行具合を確認するなどの関わり方において、課題が残った。

次年度の改善方法

- 1) Sagas ミニの調べ学習を1学期、2学期に行うのではなく、1学期は「調べ方講座」「図表の読解講座」「社会問題概論」の3部構成とし、2学期のSagas ミニがより活発な活動になるように準備する。
- 2) Sagas ミニの最終目標である問を立てる作業は、授業スケジュールの中で分割して指導する。
- 3) 生徒の多様な興味に合致するテーマを与えるためには、教員全体の協力体制が欠かせない。担当学年に事前の情報提供を適宜行い、指導する教員にも不安のないように準備する。

